

緑内障治療 それでも悪化するときにはどうしたらよいのでしょうか

緑内障治療の目標は「治す」ということではなく、「ブレーキ」を踏んで＝眼圧を下げて進行を遅らせ、歳をとっても生活に困らない視野を確保することです。しかし、眼圧を下げて緑内障が早く進行することもあります。こうしたときにはどうしたらよいのでしょうか。緑内障治療は眼圧下降以外は明確な効果が証明されていませんが、少しでも可能性のあるものを記載します。

[カルシウム拮抗薬] 高血圧に使われるニバジールなどや片頭痛治療薬ミグシスは、正常眼圧緑内障の眼血流を増加させ、視野が改善することが報告されています。

[イチョウ葉エキス] イチョウ葉エキスEGb761は、脳血管型、アルツハイマー型の痴呆症を改善させることが報告されています。イチョウ葉エキスとして国内で販売されているものには、医薬品レベルのものから食品レベルのものまであるといわれています。眼血流量の増加、神経保護などの作用から緑内障への効果が期待されています。ネズミを用いた動物実験では、EGb761が緑内障による網膜神経細胞の消失を抑えた報告や、正常眼圧緑内障患者で視野の改善を認めた報告があります。

[アルツハイマー治療薬] アルツハイマー治療薬であるメマンチンが、緑内障治療薬として有望視されたことがあります。緑内障では、視神経が障害されるだけでなく、視神経が視覚中枢と接合する外側膝状体および視覚中枢にあたる大脳の皮質が萎縮します。実験的につくられたサルの緑内障では、メマンチン投与によって、外側膝状体の神経細胞の萎縮が抑えられ、神経の保護作用が示されています。しかしその後、期待したデータが得られなかったためか製薬メーカーの研究が中止されています。

[ビタミンB12] メチコパールが、神経保護作用を期待して、また安全で使いやすいことから以前からよく処方されていました。正常眼圧緑内

障へ投与し、視野機能維持に対して有効だったという調査がでています。一方、広隅角緑内障、正常眼圧緑内障への投与で、一部に視野改善例があるものの統計的には有意な効果が認められなかったという報告もあります。

[高脂血症用薬] コレステロールを低下させるために、メバロチン、リピバス、リピトールなどのスタチン製剤が内科で広く使われています。スタチンは、視神経乳頭の血管構造を直接保護、あるいは間接的に眼血流循環を改善させ、緑内障の治療に役立つ可能性が考えられています。米国では心臓血管障害の多数の症例が調査され、スタチンの内服が広隅角緑内障の発症のリスクを減らしていることが示唆されています。

[星状神経節近傍照射] 星状神経節ブロック治療を受けた患者は、眼圧が低下し、眼底の血流が短時間増加することが報告されています。別な研究でも、視神経乳頭とそのまわりの網膜の血流の増加が示されています。同様の効果を求めて、痛みがなく安全な直線偏光近赤外線による星状神経節近傍照射が行われることがあります。星状神経節近傍照射を週2回継続して行くと、異常な交感神経興奮を抑制することによって、正常眼圧緑内障の眼圧は一過性に下降、視神経乳頭の血流は増加、維持され、症例により視野障害の進行を抑制する可能性が示めされています。

[カシス] 健康食品カシスアントシアニンが緑内障の視野障害進行を抑制する報告があります。

[緑内障点眼薬アイファガン] 神経保護効果が期待されるアイファガンは、眼圧下降に対応しない視野維持効果があることが示されています。眼圧が低下しても視野の進行を認めるときに追加点眼されることがあります。充血、アレルギーなどの副作用があります。